



## 酒屋の駕籠・奈良橿原

江戸時代には豪商が軒を並べたと伝えられる奈良県橿原市  
今井町は歴史の息づく古き良き街並みで、素晴らしい光景を  
醸し出す。

私が訪れた時、快青の空と白壁が見事にマッチして、  
心躍る取材ができた。現在、東西六百メートル、南北三百十  
メートルの範囲に五百棟に及ぶ建造物がある。そのうちの九  
軒は重要文化財に指定されていて、実に見応えのある風情を  
感じさせる。国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され  
たのは一九九三年である。今回お伝えする「駕籠」であるが、約  
三百年前の元禄時代から上品寺屋じょうぼんじやという屋号の造り酒  
屋で重文に指定されている河合家は、現在の当主、健志さん  
(七十一歳)で十七代目を数える。その由来を「上品寺村の  
出身でしたから、屋号に名乗ったようですよ。以後、今日ま  
で続いています。当時は駕籠がいくつもあったと聞きました。  
今のは母親が嫁入り道具として乗ってきたものです」と語る。  
当時の嫁入りの光景が浮かび、ほほ笑ましい。

(写真・文 樋口健二)